



『鬼の橋』

伊藤 遊／作 太田大八／画
福音館書店

平安初期の京都。自分の不注意で妹を死なせた
罪の意識に苦しむ12才の篁（たかむら）は、ふとし
たことから冥界に紛れ込む。五条橋の下に住む少女、
冥界でさまよう坂上田村麻呂、この世に現れた鬼た
ち。様々な困難に立ち向かい成長する篁を描きます。



『ガラスのうさぎ』

高木敏子／作 武部本一郎／画
金の星社

東京大空襲の日、敏子は母とふたりの妹を失い、
その5ヶ月後、今度は父をも目の前で殺されてしま
います。空襲の焼け跡でみつけたガラスのうさぎは、
この戦争を決して忘れてはならないことを強く語り
かけています。



『彼の手は語りつぐ』

パトリシア・ポラッコ／文と絵 千葉茂樹／訳
あすなろ書房

南北戦争で出会った文字の読める黒人ピンクスと
文字を読めない白人シェルダン。ピンクスは言った。
「たとえ奴隷でも、自分のほんとうの主人は、自分以
外にはいない」と。シェルダンから娘へ、娘から孫
へと代々語りつがれてきた本当にあったおはなし。



『ぎぶそん』

伊藤たかみ／著
ポプラ社

ガクとリリィ、マロはバンド仲間。だけど新しい
ギタリストのかけるに夢中なガクに、リリィたちは
面白くありません。恋と友情をめぐる4人の仲はぎく
しゃくし、演奏までバラバラ。果たして文化祭に間
に合うのでしょうか？